

白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.33
東海村立白方
小学校
2025.12.19
児童数452人

北海道・三陸沖で大きな地震があり、後発地震注意報が発出されました。1週間程度は防災対応を呼びかけるとの注意報が出されました。

東日本大震災より来年3月で15年目を迎えます。これまでの教訓をいかし、村立学校では震度5弱以上の大地震が起きた際には、児童の命と安全を守るために、保護者の皆様に児童の引き渡しを実施することにしております。道路状況や通信状況などにより学校への到着が遅れたり、連絡がつかなかったりする可能性もありますが、保護者の皆様が来校されるまで、児童を確実に学校でお預かりしておりますので、どうぞご理解ご協力をお願いできればと存じます。

ネオホッケー

～ 国体時に東海村で開催したホッケーに親しむ機会を体育委員が考えました。～

本校では、12月より体育委員がネオホッケーに親しむ機会を作っています。ネオホッケーとは、プラスチック素材でできたホッケーのスティックとボールを用いて行うスポーツです。本来のホッケーのスティックは固く重いため、当たると怪我をしてしまう場合があります。またボールも固く速度もかなり速くなります。ネオホッケーでは軽いプラスチック素材のスティックとボールを用いるため、安全に楽しむことができます。

体育委員が学年に応じてネオホッケーを楽しむ運動メニューを考えて、火曜日の昼休みに学年をかえながら親しむ機会を設けています。

6年生の体験の時には、まず、スティックとボールでパスの練習をしました。本来のホッケーのスティックは片面しか平らではないため、ボールを受ける際には、片方の面しか使わないので、ネオホッケーでもいつも同じ面を使ってボールを止める練習をしました。その後、ボールをスティックで転がしながら移動するドリブルのリレーを行いました。10人ずつ2チームに分かれ、どちらのチームが、ドリブルでコーンを周り次の人々に繋ぐリレーを速く終えることができるか競争しました。初めての経験の児童が多くいましたが、みんな上手にドリブルしながらコーンを回ってリレーを繋ぐことができました。最後は、ゴール前でパスをもらってシュートする練習をしました。パスで受け取ったボールを足元でスティックを使ってトラップして、

スティックを振りあげ、勢いをつけてシュートする練習を行いました。ネオホッケーを通してホッケーのやり方を知ると共に、体を動かす快さ、仲間とスポーツを楽しむ良さを実感できる貴重な体験となっています。



読み聞かせの会

～ たんぽぽの会の皆様が読み聞かせ会を開いてくださいました。～

視聴覚室で村立図書館の読書ボランティア団体である「たんぽぽの会」の皆様が読み聞かせの会を開催してくださいました。まずは、1年生は「かわ」を、2年生は「しゅくだい」の読み聞かせをしていただきました。川は大型の絵本で開くと教室の横の長さぐらいに長くなるほんでした。文章の情景が思い浮かぶような読み方で、読み聞かせていただきました。直ぐにみんなの心は、本の世界に引き込まれました。次に紙芝居では「はて」という地球の果て（はて）を探す旅に出た動物のお話でした。最後の人形劇では「3匹の子ぶた」を見せていただきました。人形の動きや小道具が工夫され、場面が変わる度に、大いに盛り上がりを見せていました。「たんぽぽの会」の皆様は村立図書館はもとより、各保育所、幼稚園、小学校で読み聞かせを行っていただいており、今回も1、2年生に合わせた内容のお話を選び、興味・関心を高める読み聞かせの技で、児童を魅了しました。

